

Webアプリケーション標準エラーメッセージ

Webエンジン Ver. 3.0対応
リリース 1.0
初版: 2003 年 3 月



*Muratec Information
Systems.LTD.*

Webアプリケーション 標準エラーメッセージ, リリース 1.0

原本部品番号:W1C0001-01

原本名: Hayabusa Web Error Messages, Release1

原本著者: 長谷川 和彦

デザイン: 久田 雅子

Copyright © 2002, MURATEC INFORMATION SYSTEMS,LTD. All rights reserved.

Printed in Japan

制限付権利の説明

プログラム(ソフトウェアおよびドキュメントを含む)の使用、複製または開示は、ムラテック情報システムとの契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。ムラテック情報システムは本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* ムラテック情報システムとは、ムラテック情報システム株式会社を指します。

危険な用途への使用について

ムラテック情報システム製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。ムラテック情報システム社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、ムラテック情報システムおよびその関連会社は一切責任を負いかねます。

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

第 I 部	概要	1
第 1 章	メッセージの使用方法	2
	1. メッセージの種類	2
	2. 国際化対応	2
	3. メッセージの文法	3
	4. message タグ	4
	5. PL/SQLのエラーメッセージ	4
第 2 章	メッセージの命名規則とオーバーライド	6
	1. メッセージコードの採番ルール	6
	2. オーバーライド(上書き)	6
第 II 部	Webアプリケーション標準メッセージ	7
第 3 章	エラーメッセージ	8
第 4 章	メッセージ	9
第 5 章	その他メッセージ	11

はじめに

このマニュアルでは、Webアプリケーション製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて説明します。このマニュアルでは、各メッセージについて、メッセージの文、および考えられる原因と処置の方法を説明しています。メッセージが警告であったり、エラーの発生を表している場合は、解決方法を示します。

《対象読者》

このマニュアルは、全てのWebアプリケーションユーザーを対象としています。

《本文の表記規則》

本文中には、特別な用語が一目でわかるように様々な表記規則が使用されています。次の表は、本文の表記規則を示しています。

規則	意味
太字	太字は、本文中に定義されている用語または用語集に含まれている用語、あるいはその両方を示します。この句を指定する場合は、索引構成表を作成します。
大文字	大文字は、システムにより指定される要素を示します。
小文字	小文字は、実行可能ファイル、ファイル名、ディレクトリ名およびサンプルのユーザー指定要素を示します。 注意: 一部のプログラム要素には、大文字と小文字の両方が使用されます。この場合は、記載されているとおりに入力してください。
イタリック	イタリックは、プレースホルダまたは変数を示します。

《コード例の表記規則》

次の表は、コード例の記載上の表記規則を示しています。

規則	意味
[]	大カッコで囲まれている項目は、1 つ以上のオプション項目を示します。大カッコ自体は入力しないでください。
{ }	中カッコで囲まれている項目は、そのうちの 1 つのみが必要であることを示します。中カッコ自体は入力しないでください。
	縦線は、大カッコまたは中カッコ内の複数の選択肢を区切るために使用します。オプションのうち 1 つを入力します。縦線自体は入力しないでください。
… ⋮ ⋮	省略記号は、例に直接関係のないコード部分が省略されていることを示します。

《アイコン》

本文中には、特別な情報を知らせるために、次のアイコンが用意されています。



ヒント

提案や秘訣を示し、これらによって、時間の節約や手順の容易化などを実現できる場合があります。



警告

システムに致命的な影響を及ぼす可能性のあるアクションについて、注意が必要であることを示します。



コラム

関連する基礎知識や細かい技などを解説しています。

第 I 部 概要

『何としても二階に上がりたい、どうしても二階に上がろう。
この熱意がハシゴを思いつかせ、階段を作りあげる。
上がったも上がらなくてもと考えている人の頭からはハシゴは生まれない』
松下 幸之助（松下電器）

ここでは、標準エラーメッセージの概要について説明します。
構成は、次のとおりです。

第 1 章 メッセージの使用方法
エラー・メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。

第 2 章 メッセージの命名規則とオーバーライド
各 Web アプリケーションで採番するメッセージコードの採番ルールと標準メッセージのオーバーライド(上書き)方法について説明します。

Web
Web
アプリケーション

第1章 メッセージの使用方法

この章では、エラー・メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。

1. メッセージの種類

エラーメッセージは、組込標準メッセージと、カスタムメッセージの2種類存在します。組込標準メッセージは、Webアプリケーションフレームワーク(Webエンジン)として、配布されますので、いつでも使用することが可能です。

カスタムメッセージは、通常、

UAP¥webapps¥システムID¥src¥resource¥MessageResource_ja.properties
で、アプリケーション毎に作成されているメッセージリソースとして提供されます。

組込標準メッセージは、ERRxxxx (xxxxは連番)の組込エラーメッセージとMSGxxxx (xxxxは連番)の組込メッセージに、別れていますが、内部的にはこれらの使い分けをしているのではなく、メッセージIDとして分けているだけです。

カスタムメッセージは、基本的には上記メッセージIDを使用しません。通常は、システムID+E+連番のカスタムエラーメッセージ、システムID+M+連番のカスタムメッセージを採番します。

詳細は、第2章 メッセージの命名規則とオーバーライド を、ご参照願います。

2. 国際化対応

メッセージは、リソースファイルで管理されています。

これは、国際化対応可能なファイルとして、各国語に翻訳されたメッセージを独自に持つことが出来ます。

MessageResource.properties	デフォルトのメンバ
MessageResource_ja.properties	日本語のメンバ
MessageResource_en.properties	英語のメンバ
MessageResource_zh.properties	中国語のメンバ

それぞれのログインユーザーの言語に応じて、下記のリソースファイルが選ばれ、各々の言語で表示されます。

さらに、各システム毎にリソースファイルを利用する場合には、SystemResource.propertiesのSYSTEM_ID を利用することが可能です。

SYSTEM_ID に、GE が指定されている場合、物理的なリソースファイルは、(ユーザーの言語が、ja の場合)MessageResource_ja_GE.properties が検索され、このファイルに存在しない場合は、MessageResource_ja.properties が探され、次いで、MessageResource.properties が探されます。

リソースファイルの代わりに、RESOURCE_MESSAGE_DB を使用して、データベースからリソース情報を取り出すことも可能です。

3. メッセージの文法

メッセージそのものの処理は、`java.text.MessageFormat` を用いて処理されます。

`MessageFormat` の、引数には、フォーマットタイプを指定できます。すべての引数は、`String` (文字列)とみなして処理されます。

引数は、0 ~ 9 までの数字で指定できます。

通常のタグでは、引数は、指定できませんが、`message` タグで指定する場合は、10個分フルに指定することが可能です。

PL/SQLからのエラーメッセージは、引数を5個まで指定できます。

引数は、`{0}` のように、`{}` で囲み、中に引数の順番を入れます。

例) リソース文字

ERR0013=マスター未登録エラー。キー {0} は、{1} に存在していません。

ERR0014=マスター登録済みエラー。キー {0} は、{1} にすでに登録済みです。

ERR0015=データがありませんでした。キー {0} で {1} しましたが、0件でした。

ERR0016={0} エラー。キー {1} で {2} しましたが、{3} のため、{4} でした。

ERR0017=選択エラー。選択行数({0} 件)が、制限値({1} 件)以上選ばれました。

ERR0018=選択エラー。選択行数({0} 件)が、制限値({1} 件)以下選ばれました。

例) メッセージ属性が使用できるカスタムタグ一覧

タグ名	属性名
ButtonTag	msg
EntryQueryTag	displayMsg
ErrorMessageTag	displayMsg
ErrorMessageTag	warningMsg
FavoriteLinkTag	msg
FileQueryTag	displayMsg
FileQueryTag	overflowMsg
HelpTag	msg
HelpTag	viewMsg
InputTag	msg
LinkTag	msg
MessageTag	msg
OptionTag	msg
PlsqlUpdateTag	displayMsg
QueryTag	displayMsg
SelectTag	msg
TextareaTag	msg
UpdateTag	displayMsg

4. message タグ

message タグを利用することで、国際化を考慮して各種メッセージを出力することが出来ます。

以下に、message タグの属性を説明いたします。

属性	説明
msg	メッセージを指定します。ラベル ID とメッセージ ID は同時には登録できません。
lbl	ラベルを指定します。ラベル ID とメッセージ ID は同時には登録できません。
language	言語コードを指定します。この言語コードに基づいて、表示のラベルをリソースから作成します。
comment	コメントを指定します。msg 属性でメッセージリソースから読み取りますが、開発途中でリソース登録を済ましていない状態でコメントを入れる場合に、直接コメントをかけるようにします。
val0	メッセージの引数を指定します。引数0
val1	メッセージの引数を指定します。引数1
val2	メッセージの引数を指定します。引数2
val3	メッセージの引数を指定します。引数3
val4	メッセージの引数を指定します。引数4
val5	メッセージの引数を指定します。引数5
val6	メッセージの引数を指定します。引数6
val7	メッセージの引数を指定します。引数7
val8	メッセージの引数を指定します。引数8
val9	メッセージの引数を指定します。引数9

5. PL/SQLのエラーメッセージ

PL/SQLで検索/登録する場合に、実行時エラーやエラーチェックでエラーメッセージを返す場合、エラーコードと引数を使用します。

例)

```
CREATE OR REPLACE PACKAGE INSERT_DB01_PKG AS
  PROCEDURE INSERT_DB01(
    P_KEKKA          OUT    NUMBER,
    P_ERRMSG        OUT    ERR_MSG_ARRAY,
    P_NAMES         IN     VARCHAR2,
    P_SYSARGS       IN     SYSARG_ARRAY,
    P_DB01ARG       IN     DB01ARG_ARRAY );
END;
/
```

P_KEKKA は、そのPL/SQL全体を通しての結果で、以下のコードを返します。

記号	コード	説明
OK	0	正常な場合
WARNING	1	警告。処理は正常終了します。
NG	2	エラー。ロールバックします。
EXCEPTION	8	エラー(拡張用予約)
ORCL_ERR	9	エラー(拡張用予約)

※ 記号は、エラーコードに対応するメニューです。(内部記号)

P_ERRMSGs は、別途定義済みの ERR_MSG_ARRAY です。
このARRAY に値を設定する為に、SET_ERRMSGs PROCEDURE を用意しています。

```
PROCEDURE SET_ERRMSGs
(P_ERRMSGs IN OUT  ERR_MSG_ARRAY,
 P_NO      IN      NUMBER      := NULL,
 P_KEKKA  IN      NUMBER      := NULL,
 P_ID     IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG1   IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG2   IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG3   IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG4   IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG5   IN      VARCHAR2    := NULL );
```

引数	入出力	説明
P_ERRMSGs	IN OUT	エラーメッセージ配列
P_NO	IN	行番号
P_KEKKA	IN	このメッセージに対する結果(エラーコード)です。このARRAYは、複数のメッセージを登録できる為、エラーやワーニングや正常な場合のメッセージも個別に登録できます。
P_ID	IN	エラーメッセージID
P_MSG1	IN	メッセージパラメータ1 {#ラベル ID} を使用するとそのラベルIDに対応する言語に応じたリソースが使用されます。
P_MSG2	IN	メッセージパラメータ2(同上)
P_MSG3	IN	メッセージパラメータ3(同上)
P_MSG4	IN	メッセージパラメータ4(同上)
P_MSG5	IN	メッセージパラメータ5(同上)

第2章 メッセージの命名規則とオーバーライド

この章では、各Webアプリケーションで採番するメッセージコードの採番ルールと標準メッセージのオーバーライド(上書き)方法について説明します。

1. メッセージコードの採番ルール

メッセージコードの採番ルールは規定されていませんが、組込標準メッセージ(ERRxxxx、MSGxxxx)は、Webエンジンに予め取り込まれていますので、使用しないでください。これを使用する場合は、後述する、オーバーライドに相当します。

通常は、カスタムメッセージは、システムID+E+連番のカスタムエラーメッセージ、システムID+M+連番のカスタムメッセージを採番します。

例) GE というシステムの場合

GEE0001	{0} が存在しません。
GEM0001	検索しましたが、{0} は、ありませんでした。

メッセージファイルそのものも、同一IDで、デフォルト、日本語、英語、中国語等の必要なソースファイルを用意しておいて下さい。

MessageResource.properties	デフォルトのメンバ
MessageResource_ja.properties	日本語のメンバ
MessageResource_en.properties	英語のメンバ
MessageResource_zh.properties	中国語のメンバ

2. オーバーライド(上書き)

すでに、組込標準メッセージが、Webエンジン内部で使用されている場合でも、お客様のご要望によっては、変更する必要があるかもしれません。

そのような場合は、オーバーライドします。

方法は、カスタムメッセージファイルに、組込標準メッセージのIDと同一のIDでメッセージを作成します。(つまり、オーバーライドします。)

Webエンジンは、メッセージIDのキーに対して、カスタムメッセージを検索し、無ければ組込標準メッセージを検索しますので、先に見つかるメッセージを表示します。

逆に、誤ってオーバーライドしてしまったり、現状存在しないからといって勝手に採番してしまうと、予期しない箇所で組込標準メッセージが使われてしまいます。

第 II 部

Webアプリケーション標準メッセージ

『新しい技術への挑戦というリスクを取らない方がリスクは大きい。
この世界では、何もしないことが一番大きなリスクになる。』
ラリー・エリソン (オラクル創業者)

ここでは、個々のメッセージについて記載します。
構成は次のとおりです。

第 3 章 エラーメッセージ

Webアプリケーション標準のエラーメッセージについて記載します。

第 4 章 メッセージ

Webアプリケーション標準のメッセージについて記載します。

第 5 章 その他メッセージ

メッセージ番号のついていないアプリケーションで使用しているメッセージについて記載します。

Web
Web
アプリケーション

第3章 エラーメッセージ

この章では、Web アプリケーション標準のエラーメッセージについて記載します。

メッセージID	メッセージ
ERR0001.T	ユーザーログインエラー
ERR0001.1	ユーザーログインエラーです。
ERR0001.2	パスワードが異なるか、ユーザー登録されていません。
ERR0001.3	管理者に相談して、必要であれば、登録してもらってください。
ERR0002.T	ユーザーログインエラー
ERR0002.1	セッションのタイムアウトか、またはユーザーログインエラーが発生しました。
ERR0002.2	現在のタイムアウトは {0} 秒にセットされています。
ERR0002.3	長時間使用しない場合は、セッションタイムアウトにより、サーバー側の負荷を軽減しています。
ERR0002.4	もう一度、ログインし直してください。
ERR0003.T	ロールエラー
ERR0003.1	{0} さんは、このページを見る権限が与えられていません。
ERR0003.2	管理者に相談して、必要であれば、権限を与えてもらってください。
ERR0004.T	予期せぬエラー
ERR0004.1	ユーザーログイン時に予期せぬエラーが発生しました。
ERR0004.2	管理者に相談して、対応してもらってください。
ERR0005.T	不正アクセスエラー
ERR0005.1	あなたはユーザー認証に3回以上の失敗をしました。
ERR0005.2	これは、このサイトに対して不正アクセスを試みようとしてしていると判断いたします。
ERR0005.3	間違いであれば、管理者とご相談ください。
ERR0006	文字列の長さが指定の長さよりも長いです。key={0} value={1} len=[{2}] > [{3}]
ERR0007	全てが全角文字ではありません。key={0} value={1}
ERR0008	指定文字数が負です。key={0} value={1}
ERR0009	指定の文字以外の文字が使われています。key={0} value={1}
ERR0010	HTML タグは登録できません。key={0} value={1}({2}) char={3}
ERR0011	文字列の長さが指定の長さとは異なります。key={0} value={1} len=[{2}] != [{3}]
ERR0012	指定のデータがセットされていません。(NULL エラー)。key={0}
ERR0013	マスター未登録エラー。キー {0} は、{1} に存在していません。
ERR0014	マスター登録済みエラー。キー {0} は、{1} にすでに登録済みです。
ERR0015	データがありませんでした。キー {0} で {1} しましたが、0件でした。
ERR0016	{0} エラー。キー {1} で {2} しましたが、{3} のため、{4} でした。
ERR0017	選択エラー。選択行数({0} 件)が、制限値({1} 件)以上選ばれました。
ERR0018	選択エラー。選択行数({0} 件)が、制限値({1} 件)以下選ばれました。
ERR0019	データベースエラーが発生しました。
ERR0020	データ登録時にワーニングが発生しました。

第4章 メッセージ

この章では、Web アプリケーション標準のメッセージについて記載します。

メッセージID	メッセージ
MSG0001	選択して下さい。
MSG0002	ソート順
MSG0003	ファイルの登録が完了しました。
MSG0004	メールの登録が完了しました。
MSG0005	テンポラリの添付ファイル削除に失敗しました。
MSG0006	添付ファイルがある場合は、先に添付ファイルの選択を行ってください。
MSG0007	検索結果が、制限行数を超えたので、残りはカットされました。
MSG0008	ようこそ {0} さん。
MSG0009	現在のタイムアウトは {0} 秒です。
MSG0010	検索(F)
MSG0011	クリア
MSG0012	表示件数
MSG0013	開始位置
MSG0014	お名前をどうぞ
MSG0015	アップロードファイル名
MSG0016	添付ファイル
MSG0017	状況表示
MSG0018	プール削除
MSG0019	名前
MSG0020	パスワード
MSG0021	もう一度やり直してください。
MSG0022	ファイル名
MSG0023	項目区切文字
MSG0024	ファイル形式
MSG0025	エンコード
MSG0026	出力モード
MSG0027	出力順
MSG0028.OPT	Default,Fixed,CSV,XML
MSG0028.Default	標準
MSG0028.Fixed	固定長出力
MSG0028.CSV	CSV 出力
MSG0028.XML	XML
MSG0028.PDFXML	PDFXML
MSG0029.DEFAULT	DEFAULT
MSG0029.MS932	MS932

第4章 メッセージ

メッセージID	メッセージ
MSG0029.SJIS	SJIS
MSG0029.JIS	JIS
MSG0029.EUC_JP	EUC_JP
MSG0030.OPT	true,false
MSG0030.true	追加モード
MSG0030.false	新規モード
MSG0031	ログインユーザー
MSG0032	検索条件
MSG0033	件検索しました。
MSG0034	追加(I)
MSG0035	複写(C)
MSG0036	変更(M)
MSG0037	削除(D)
MSG0038	登録(W)
MSG0039	ユーザー削除
MSG0040	件登録しました。
MSG0041	件変更しました。
MSG0042	件削除しました。
MSG0043	実行(R)
MSG0044	追加処理を行います。
MSG0045	複写処理を行います。
MSG0046	変更処理を行います。
MSG0047	削除処理を行います。
MSG0048	処理を取り消します。
MSG0049	戻る
MSG0050	取消
MSG0051	ダイレクト
MSG0052	ZIP 圧縮
MSG0053	選択(S)
MSG0054	連絡 NO:{0} を選択しました。
MSG0055	保存
MSG0056	開く
MSG0057	取込
MSG0058	削除
MSG0059	登録しました。
MSG0060	変更しました。
MSG0061	削除しました。
MSG0062	実行しました。
MSG0063	完了しました。
MSG0064	ファイルが存在していません。

第5章 その他メッセージ

この章では、メッセージ番号のついていないアプリケーションで使用しているメッセージについて記載します。

メッセージID	メッセージ
ORDER_BY	検索順
Counter	カウンタ
RefreshTime	更新時間(秒)
PageSize	表示件数
StartNo	表示開始
MaxRowCount	最大検索件数

索引

M

message タグ 4

MessageFormat 3

message タグ 3

S

SET_ERRMSG 5

SYSTEM_ID 2

え

エラーチェック 4

お

オーバーライド 1, 2, 6

か

カスタムメッセージ 2, 6

く

組込標準メッセージ 2, 6

し

実行時エラー 4

め

メッセージコード 6